

赤水の功績 全国に

特別展 都内で開幕 肖像画や資料23点

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の特別展示「いったい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」が2日、東京・日比谷の領土・主権展示館で始まった。同館を所管する内閣官房と長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）の共催。8月4日まで。赤水は経緯線を入れた日本最初の地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を作成。同地図には竹島が描かれていることから注目されており、顕彰会は今回の展示をきっかけに、赤水の功績を全国にアピールしていく。

開会前には、福井照領土問題担当相と佐川会長らが

「てもらいたい」とあいさつした。

テープカットで開幕を祝った。佐川会長は「赤水の功績は世界的にも通用するもの。展示資料を通して一人でも多くの人に赤水を知

てもらいたい」とあいさつした。特別展の目玉の赤水図は、歴史的に有名な伊能忠敬の地図より前に完成。さらに、竹島が描かれていることから、当時の庶民が竹

島を日本領と認識していたこと示す証拠の一つとしても注目されている。会場にはほかに、赤水の肖像画や銅像など関連資料23点が展示されている。

福井大臣は「230年以上も前に作られた赤水図には竹島が的確に記載されている。展示が竹島問題をはじめ、領土・主権に関する国民世論の啓発に資することを期待したい」と述べた。

同館は、竹島問題や尖閣諸島を巡る情勢などについて、資料をまとめて展示、紹介する初めての国の施設として1月に開設された。

同展は午前10時～午後6時まで。休館日は21日と8月4日を除く土日祝日。入場無料。問い合わせは同館 ☎03(62257)3715へ。
（高岡健作）



長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（左）から資料の説明を受ける福井照領土問題担当相＝東京・日比谷の領土・主権展示館